

平成 30 年度 学校図書館県内研修会 専門委員会レポート

不二聖心女子学院中学校・高等学校 登坂 あゆみ

平成 30 年 6 月 28 日（木）、日本大学三島高等学校・中学校にて、今年度の学校図書館県内研修会が行われた。今回の研修会は東部地区での開催ということもあり、数年前同様、東部地区公立高校の司書研修会からの参加希望を受け、合同研修会の形で開催された。加えて、小中学校の司書の参加もあり、様々な立場で学校図書館業務に携わる教職員が積極的に情報・意見交換を行った。

〈午前〉

私学教育振興会学校図書館専門部会長・飯田瑞穂先生（桐陽高等学校長）と会場校である日本大学三島高等学校・中学校の教頭先生よりご挨拶をいただいた後、図書室で3つに分かれてグループディスカッションを行った。今回の研修会前に、「私学学校図書館現状アンケート」を実施し、すべての学校についてアンケート結果を資料として配布した。この資料も参考にしつつ、互いの図書館活性化に繋がるような情報・意見交換と、午後の研修会に繋がるようなテーマを掲げ、それぞれのグループで話し合いが行われた。変わりゆく教育改革の中で、学校図書館としてどうあるべきか、ICT 教育やアクティブラー



ニングにどうコミットしていくのか、この 2 つの課題はどのグループでも時間をかけ意見交換された話題となった。

昼食後、午後のスタートまでの時間で図書室内の見学と、東部地区では恒例となっている地元書店によるブックフェアで届いた本に目を通した。図書館にとって選書は重要な業務のひとつであり、蔵書は図書館の在り方を示すひとつの指針とも言える。実際に本を手に取り選ぶことのできる貴重な機会に、時間が過ぎるのも忘れ自校の図書館を思いメモを取る姿を多くみることができた。



〈午後〉

まず会場校の図書館活動についてうかがい、その後校舎内見学を行った。日本大学三島高等学校・中学校の図書室は新しく建て替える際に、学校の中心部分に建設されたことで、校内における恵まれた立地となったことから利用者も増加したようだ。入口の目立つ場所には各教科の先生のおすすめ本がディスプレイされ、廊下を通る人に見えるよう図書委員の生徒による本紹介が行われている等工夫されていた。iPadを使用し3年目となる今年は、フィールノートというアプリを個人の読書記録を書き込んでいく読書ノートのような活用はできないか、ということについて検討を進めているというお話もあった。

その後午後の講演となった。コクヨ（株）ファニチャー事業本部 TCM 事業部教育バリューチームの木村渉氏と松本毅氏を講師としてお招きし、「環境からみるラーニングコモンズ～これから求められる学校図書館～」という演題で講義していただいた。講義の前半は、携わってきた変革の好事例を具体的に示していただきながら、どのようにこれから変革していくべきか、学校図書館のこれからの姿について方向性と可能性を知る機会となった。講義後半では、前半講義を受けて参加者がアンケートに答え、その内容についてより具体的な方策や提案をいただく時間となった。

世の中の流れは、想像よりはるかに早く、職業の在り方も様変わりする可能性が高いと叫ばれる昨今、企業に求められるものが変化し、やがて大人になる学生たちに求められるものも大きく変化しようとしている。受動的であった学びは、能動的で主体性・多様性・協働性が求められている。その実現のためには、改革が必要であり、型（ビジョン・ルール）と場（空間・インフラ）の仕掛けにより人は変わり、そしてその人を見て周囲もまた影響を受けていく流れができる。これは企業も学校も同じで、企業はすでにこの変革が行われている所も少なくはない。授業内における主体的な学びには限りがあり、主にアウトプットの場である一方、これからより重要視されるべき時間は、授業外時間の主体的学びをいかに充実させることができるかということである。その時間は自学自習に留まることなく、様々な場所で色々な人と出会い、議論すべき時間でもあるべきことが学びに求められるスタイルとなることから、この経験がやがて社会で必要とされる人材を育てる。これまで携わって来た空間づくりの経験を元に、進められた講義の中に、学校図書館のこれから求められる姿のヒントをたくさんいただく機会となった。



学びのスタイルが多様化する中で、静かに過ごす場所とされてきた学校図書館は、変革の時に来ている。学校図書館業務に携わる私たち教職員が、既成概念から脱却し、「ラーニングコモンズ」＝「主体的な学びを支援する場」であることを目指すことが必要だと感じた。そして、与えられた環境の中で、どうしかけていくのか、「学びを保障する場」として変革の時代から取り残されないためにも、書籍を閲覧する場所からより広く活発な動きのある空間へと、可能性を広げる役割が学校図書館にあることを再認識した。

一日の研修を通し、日頃の問題についての相談やその問題解決についての意見交換をはじめ、学校図書館に携わるもの同士が集い刺激し合えたことで、大変有意義な時間を過ごすことが出来た。